フェアトレード　東洋大生の試み

東洋大学国際地域学部
国際地域学科3年
大塚　瑠依
林　大輔

貧困に悩む生産者支援

女性150人分の月収確保

私たち東洋大学子島ゼミは8月16日から20日までの5日間、館林つつじの里ショッピングセンターでフェアトレード商品の販売を行いました。フェアトレードとは、発展途上国の生産者との対等なパートナーシップのもと、適正な価格で取引することを言います。生産者に継続して仕事を提供し、適切な賃金を支払うことで、貧困からの自立を支援します。

今回は5つのフェアトレード団体（会社）から約200万円分の委託を受け、48万円を売り上げました。昨年の67万円（7日間）と合わせると、累計額は115万円です。非常に大ざっぱな計算ですが、2回の販売で、経済的にきわめて厳しい状況にある女性生産者150人分の月収を確保したことになります。

今回は、いくつか一押しの商品を選んで重点的にPRし、販売を伸ばそうと決めました。具体的にはネパールの有機栽培コーヒー、バングラデシュの刺しゅう「ノクシカタ」、インドのヤギ革の小銭入れやブックカバー、ジンバブエのTシャツ、フィリピンのドライマンゴーです。この中でも、ヤギ革製品が最もよく売れました。

この製品は、環境に配慮し食用のヤギ革を使用しています。植物性のタンニンなめしを施し、一つ一つ手で型を押し、色を付けて仕上げているので、使えば使うほど手になじんで軟らかくなり、また光沢も出ます。自分たちで選び、宣伝に力を入れた商品が売れていくのを見るのはうれしかったです。

しかし、すべてがうまくいったわけではありません。7000％のインフレに苦しむジンバブエの生産者を支援しようと、Tシャツの重点販売を決めました。自分たちでも、そのTシャツを販売時のユニホームとして購入しました。けれども、物不足に苦しむ現地でのTシャツ作りが中断を余儀なくされたため、商品自体がほとんど入荷しませんでした。結局、残念ながら私たちのPRも空振りに終わりました。

各団体への連絡、商品の決定と発注、販売の打ち合わせ、会場作りと4カ月から4カ月かけて準備し、販売に臨みました。今年のゼミ生は3人だけだったので、いくつもの仕事を兼任し大変な部分もありましたが、販売に際しては多くのボランティアの学生や先輩が集まってくれました。今回の販売では、売り上げを伸ばすことよりもフェアトレードを広めることを一番の課題としました。

目黒にある第3世界ショップを訪問した子島進准教授（左端）とゼミ生ら

広告予算は全くなかったので、マスメディアに取り上げてもらおうと、館林市役所で記者会見を行いました。その結果、4つの新聞に計12回記事が掲載されました。また、テレビで2回、ラジオで1回放送されました。その宣伝効果は大きなものだったと思います。「新聞に載っていましたよね」と声をかけてくれるお客さんもたくさんいました。私たち自身もチラシを作り、販売前の土日にアゼリアモールで配りました。

会場のディスプレーは、ノクシカタを中心としたものにしました。11人の女性たちが3カ月かけて縫い上げた巨大ノクシカタを吊るし、その向かいに彼女たちの日常生活を撮影した写真パネルを配置しました。ノクシカタを学生が実際に作った「ノクシカタ体験キット」も展示しました。これに加えて、各フェアトレード団体から送ってもらったパネルや自作のポスター、さらにイオンや無印良品などの一般企業が取り扱い始めたフェアトレード・コーヒーなどの展示も行いました。これらを通して生産者の生活やフェアトレードの広がりについて理解を深めてもらえたと思います。

しかし、直接お客さんにフェアトレードの商品を説明することはやはり難しかったです。どうしても「フェアトレード商品を買ってもらえば、経済的に困っている生産者の手助けになります」という安易な説明に陥りがちでした。フェアトレードの商品の中には「環境と健康への配慮」や「伝統的な文化に根ざした手仕事」といった点をアピールできるものがたくさんあります。対等なパートナーとしての生産者もそういったポイントをアピールしてくれることを望んでいると思います。

この点をより具体的に伝えるためには、世界のさまざまな文化や歴史を学んでいくことが必要です。そして、その知識をディスプレーとして形にし、説明を行っていくことが今後の課題だと強く思いました。

フェアトレード商品の販売を取材する館林ケーブルテレビ

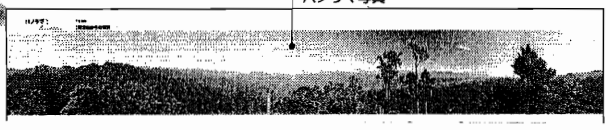
ボランティアの学生がアゼリアモールでPRのビラ配り

空から見る。360°で見る。群馬県の姿をダイナミックにとらえた写真集！

［空から群馬］

21世紀を迎えた群馬の姿を、高度2,000メートルの上空から高画質フィルムで鮮明にとらえた航空写真集です。県内ほぼ全域の160カ所を網羅し、地図ではとらえにくい地形や町並みなどを、リアルに見ることができます。さらに、山頂や群馬県庁の最上階などから望む360°のパノラマ風景写真40点を掲載。雄大な自然の姿や眺望を広い視野で楽しめます。

パノラマ写真



特長